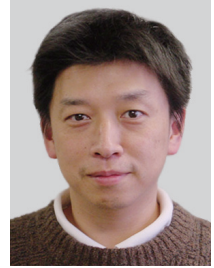


ソフトウェア基礎・応用論文特集の発行にあたって



ソフトウェア基礎・応用論文特集編集委員会

委員長 結縁 祥治

コンピュータシステムの社会に対する浸透が深まるにつれて、ハードウェアの発展のみならずソフトウェアの発展が社会を支えている。ネットワークによってコンピュータシステムが相互接続され、IoTのようなハードウェアの形にとらわれないソフトウェアシステムが形成されつつある。ソフトウェアは抽象的なプロダクトであり、ハードウェアに比べて自由度が大きく、ハードウェアのもつ計算能力を目的に沿って正しく利用する必要がある。求められるソフトウェアシステムがもつ規模と複雑さに対して、ソフトウェアが本質的にもつ論理的な明快さを正確に実現することは必ずしも容易ではない。このために、ソフトウェアを抽象的にとらえてモデル化し、研究対象として様々な手法を用いて、ソフトウェアの計算としての基礎的側面からシステムの応用的側面まで、科学的あるいは工学的知見の下に説明して特徴づけることが求められる。こういった成果は、ソフトウェアシステムが十分な信頼度をもって社会に受け入れられるためには不可欠なものである。

本特集では、ソフトウェアに関わる基礎理論から応用技術までの最新の研究成果を幅広く共有することを

目的として論文を公募した。御投稿頂いた通常論文6編、レター2編に対して厳正な査読を実施した結果、通常論文1編、レター1編の計2編の論文が採択された。

これらの採録論文2編は、ソフトウェアの呼び出し構造に関する解析手法と近年注目されているGPUによる並列処理におけるグラフの高速化技術についての結果である。これらは、計算規模の大きなソフトウェアのモデリングとその効率的実行において重要な技術である。

最後に、本特集の企画から発行にあたって最新の研究成果をお寄せくださった投稿者の皆様、大変ご多忙の中、論文査読にご協力頂いた査読委員の方々、企画と編集に多大な御尽力を頂いた編集委員ならびに幹事各位、計画通りに特集発行に向けて御支援頂いた学会事務局の方々に深くお礼を申しあげる。

ゆうづみ しょうじ
結縁 祥治（正員：フェロー） 1990名古屋大学大学院単位取得退学。同年名古屋大学工学部助手。1997博士（工学）・名古屋大学。1998名古屋大学情報メディア教育センター助教授。2007より名古屋大学教授。並行計算及び並行ソフトウェアのモデル化及び解析に興味をもつ。2014より本会SS研専門委員会委員長。2015本会フェロー。

ソフトウェア基礎・応用論文特集編集委員会

委員長 結縁 祥治
幹事 岡野 浩三・鷺崎 弘宜
委員 鵜林 尚靖・緒方 和博・小林 隆志・酒井 正彦
関 浩之・中島 震・萩原 茂樹・肥後 芳樹